

平成 30 年度第 1 回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	平成 30 年 4 月 9 日 (月) 15 時～16 時 40 分	
会 場	議会棟大会議室	
出 席 者	(委 員) ※50 音順	(市・事務局)
	委 員 青砥 三枝子 委 員 吾田 富士子 委 員 石岡 くに子 委 員 上田 純恵 委 員 大関 恵子 委 員 河岸 由里子 委 員 倉田 真智子 委 員 児玉 美津子 委 員 三溝 昌宏 委 員 辻 裕子 委 員 西 博康 委 員 松浦 まゆみ 委 員 高梨 清美 (三浦朋美委員の代理) 委 員 森本 麻美	こども福祉部長 上野 美晴 こども福祉部次長 島津 一久 こども政策課長 久保田 健司 こども政策係長 井鳥 秀司 こども政策係主任 石井 彰子 こども政策係主任 村井 友紀子 (市・関係部署) こども家庭課長 藤木 健一郎 子育て総合支援センター長 磯部 由起子 こども療育課長 新谷 正 保健福祉部母子保健課長 山谷 奈奈子 主幹 (産前産後ケア担当) 渡辺 幸子 教育委員会企画総務課長 伊藤 樹美
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍 聴 者 数	2 人 (千歳民報、北海道新聞記者)	

1 開会

(こども福祉部長あいさつ) それでは、会議の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

今回は、年度開始早々の開催となり、吾田会長をはじめ委員の皆様にはお忙しい時期にも関わらず、ご出席いただきありがとうございます。こども福祉部は昨年度発足し、2年目を迎えることとなりました。昨年度、子ども・子育て施策につきまして計画どおり推進できましたことは、ひとえに委員の皆様のご御理解と御協力のおかげであり、重ねて感謝を申し上げます。さて、昨年度の会議におきまして、平成 30、31 年度の 2 年間で保育定員を 200 人拡大することを決定しております。このうち、1 年目の 30 年度につきましては 2 施設が開園し 107 人の定員拡大が実施されたところであり、2 年目となる 31 年度につきましては、約 100 人の施設整備に

ついて予定がたったところでございます。しかしながら、この4月の潜在待機児童数は予想以上に多かったということを踏まえ、プラスアルファの定員拡大につきまして、本日も提案をさせていただき、ご意見・ご審議をいただきたく、本日の会議開催とさせていただきます。

また、いよいよ次の支援事業計画の策定に着手する次期となりました。今年度はアンケート調査の実施を予定しており、皆様にご説明し、ご意見をいただきながら進めたいと考えております。

最後になりますが、こども福祉部は2年目も目標は変わらず、子どもたちが幸せや豊かさを感じ、また、子育て世代の方々に千歳市で子どもを産み育てたいと感じていただける施策を効果的に実施していくということです。ご支援の程、よろしくお願いたします。

2 議事等

委員数16人中14人の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認。

会長により議事進行。

（会長あいさつ）新年度を迎え、新しい方を迎え、新しい気持ちでこの会議に向かうことができました。4月は緊張とともに新しい始まりの時でもあります。皆さんと歩み始められることをうれしく思っております。皆様どうか健康で、会議の場に集まり、議論ができたと思います。さて、全道・全国の保育学科で少子化が進み、大変な状況であると痛感しております。今後、さらに少子化が進むといわれている中で、千歳市では潜在待機児童が増えている状況ということです。子どもが希望を持って育っていきける環境づくりの抜本的なところとして、未来を育てる保育者の不足に見舞われています。未来を創っていくのは子どもたちであるという本質に立ち返り、千歳市をどうしていくか考えて、新たな方向に進んでいかなければ厳しい状況です。私たちの中心には子どもがいて、それを支える保護者がいます。その流れの中に保育者を育てるという課題がある、ということを考えていけたらと思います。

議事等（1）「平成31年度教育・保育施設等の利用定員について」

こども政策課長から「資料1」により説明。

（会長）これにつきまして、みなさんからご質問・ご意見ございますか。

（A委員）4月1日時点で、市内にある小規模保育事業所の多くが定員以下の入所児童数となっています。このような中で、さらなる施設整備をするのはいかがなものでしょうか。31年度の不足定員見込みは131人とのことですが、特定の認定こども園しか希望しないケースなどもこの数値に含まれているのでしょうか。今後少子化が進行した場合は、市として既存施設への対応をどのようにお考えでしょうか。ま

た、保育士が全国的に不足している中で、保育士の確保方策について、現在行っている施策以外にお考えがあればお聞かせください。

(こども福祉部長) 市では年齢ごとに保育ニーズを分析しております。毎年度、4月から翌年3月にかけて右肩上がりに需要が伸び、階層としては3歳未満児が圧倒的に多い状況です。資料にありますとおり、潜在待機児童は1、2歳児に多く発生しているため、1、2歳に重点を置いて定員拡大を図りたいと考えております。

131人の不足見込みの中に特定の認定こども園を希望する子どもが含まれるかということにつきましては、潜在待機児童として、そのような方もいらっしゃると思われま

す。少子化が進行した場合の対応につきましては、千歳市では人口が増えており、先般、人口の目標を97,000人から100,000人に変更し、全庁的に人口増に取り組んでいるところです。年少人口は目減りしておりますが、新千歳空港の活況やホテルの開業、企業立地などにより、女性の就業率が目覚ましく、この傾向は当面は続くと考えられます。このことから、保育の受け皿確保についても、当面は必要なものと考えております。

保育士の確保につきましては、毎年100人規模の定員拡大をしている中、事業者の方には自助努力で保育士を確保していただいています。市としても何か新たな施策をと考えており、既存の保育士・幼稚園教諭等合同就職面接・説明会についても実施時期や回数を、皆様の意見を聞きながら実施していきたいと考えております。また、潜在保育士の把握は困難ではありますが、発掘できるよう何らかの手立てを考えたいと思っております。

(A委員) 各施設の入所児童数の月報について、2年ほど前までは市から各園に届いていましたが、施設の経営状況がわかってしまうということで送付されなくなりました。入所状況の情報はあっても良いものと思いますが、いかがでしょうか。

(こども福祉部長) おっしゃるとおり、入所児童数の月報から各施設の経営状況や児童の受け入れ状況がわかるため、全施設への送付を控えてほしいという事業者がいたことから、送付は取りやめています。必要な情報だということであれば、吟味しながらお伝えすることとなりますが、慎重に進める必要があるため、この場での回答は差し控えさせていただきます。

(会長) 特定の施設の空きを待つ子どもの保護者がいて、定員割れをする施設があるという中に大事な要素があると思います。質の問題なのか、利便性なのか、もう一歩踏み込んで検討するということも考えられると思います。

他に無いようでしたら、次の議事に移ります。

議事等(2)「子育て関連施設の新規開園について」

こども政策課長から「資料2」により説明。

(会長) ご質問やご意見ございませんでしょうか。
無いようなので、次の議題に移ります。

議事等 (3) 「次期「千歳市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査について」

こども政策課長から「資料3」により説明。

(B委員) 障がい児に十分な支援ができているか、保護者の意見をとっておいた方が良いのではないのでしょうか。いろんなところと打ち合わせをして実施してほしいと思います。

(こども福祉部長) 昨年度、初めての障がい児福祉計画を策定するに当たって、アンケート調査を実施しております。子ども・子育て支援事業計画は、それとは異なる視点で策定することとなりますが、両計画の整合を取り、位置関係を勘案しながら、盛り込む内容について検討してまいります。

(会長) 他に無いようでしたら、次の議事に移ります。

議事等 (4) 「その他」

こども政策課長から「資料4」により説明。

(会長) 幼稚園は学校教育の位置づけの中で教育委員会が所管していたことと思いますが、今後千歳市においては幼稚園に入っている子も入っていない子もこども福祉部で見渡せることとなります。保護者も複数の部署に手続きに行くことなく、利便性も良くなることと思います。新しくなった子育てガイドについても、見やすくなったと思います。

(C委員) 子育てガイドの裏表紙に乗っているちとせ子育て特典カードについて、私は使ったことがなく、協賛店に行っても使っていないのかわかりにくいです。

(こども福祉部長) 特典カードの周知が不足していることについてご意見をいただいたことから、昨年度見直しを図り、協賛事業所の一覧を新たにカードサイズで作成し、カード本体とともに配布することとしました。使いやすいカードになるよう今後も見直しを図っていきます。

(会長) 議事については以上となりますが、最後に一言ずつお願いします。

(D委員) 障がい児の計画が初めて策定されたという背景には、そういったお子さんが増えているということもあるかと思います。計画に目を通し、少しでも役に立ちたいと思います。子育てガイドも紹介していきたいです。

(E委員) 新年度が始まり、障がい児の政策も付加されるものが増え、療育の現場では大慌てで調整しているところです。今後、障がい児のサービスに係る見込み量は、

もっと増えていくと思います。

(F委員) 保育士不足と言われている中で、本園の卒園児であり、昨年夏の実習生である方を含め、新たな職員を迎えることができました。前回の会議で、実習生の力が落ちていて、現場の職員が育てていかなければならないという話題がありましたが、今年度は多くの職員がそこを大切にやっていきたいと話していました。子どもたちが豊かに育てるようお手伝いをしていきたいです。

(G委員) 子どもを保育所に預け始める時期が低年齢化しており、我が子に向き合えない保護者が増えていると感じます。それぞれの家庭の事情がありますが、1歳になるかならないかのうちに子どもを預けることで、昼寝や離乳食を園でやってもらえて助かるという保護者の声も聞かれます。第2子・第3子が生まれた時に、上の子の赤ちゃん返りに耐えられず危険な状態になる家庭もあり、早く仕事に復帰したいと考える母親もいます。そんな中で、「何歳までは自分で子どもの面倒をみたい」と考える方が、自分を変なのだろうかと不安を抱えているケースがあります。女性が就労するのは素晴らしいことですが、子育てをしている母親も素晴らしいことだと発信していかなくてはなりません。

一時預かり事業について、パート就労の方の需要で枠が埋まってしまい、専業主婦のリフレッシュでは使いづらくなっているため、受け皿を作ってほしいです。また、転勤族で親の助けがない方に、親が手伝いに来てくれたように家事や子育てを手伝ってくれるところが必要だと思います。シルバー人材センターでは周りのことはやってくれますが、全てのことをやってくれるところはありません。

(B委員) 保育士の確保について、他の自治体では講習を受けた無資格者を保育補助者として雇用しています。前回の会議で、千歳市では雇用していないと聞きましたが、私立の施設では雇用しているところもあると聞いています。そういったこともやっていかなければ解決しないと思うので、考えていただきたいと思います。

障がい児福祉計画策定時に実施したアンケートは、療育手帳などをもっている方を主体として実施しているため、手帳は持っていないが学校や生活上困っている方のニーズが拾えません。就学以降、学校の先生の理解が低く、適切な支援が受けられないことによる相談をよく受けます。全道的な問題ですが、普通学級の担任をもてない事情のある先生が特別支援教育の先生となる傾向があると思います。障がい児には障がい児のための教育が必要であるので、そのあたりのニーズも拾えたらと思います。

母子関係に着眼すると、子どもに十分に向き合えない保護者が見受けられます。働くのは良いことですが、子どもが犠牲になっては意味がありません。働いていない方をどう認めていくか考えられたらと思います。

(H委員) 日本一の生徒数となった北陽小学校区に住んでおり、大半は良い子ですが、中には問題を起こす子や、親が仕事で子どもを全然見ていない家庭も見られます。よその家庭のことだからと思わず、地域の母親でボランティア的に見回りをするな

ど、助け合う体制が作れたらと思います。昨年度、小学校の長期休業中のみ学童クラブを利用できる制度があったと思いますが、今後はどうなりますか。

(こども福祉部長) 昨年度、試行的に3か所の学童クラブで実施した結果を踏まえ、今年度は17か所全ての学童クラブで実施することとして決定しています。職員の体制はこれまでどおりのため、定員に余裕がある範囲での受け入れになりますが、夏休みをスタートとして広報などで周知していきます。

(I委員) 児童館を併設する認定こども園の設置は初めてのことで、開設に当たり、既存施設の協力をお願いします。みどりっこ・よつば学童クラブの4月の在籍数を教えていただけますか。

(こども福祉部長) みどりっこ・よつば学童クラブの定員合計110人に対し、76人が在籍しています。

(A委員) 子どもを預けて働く人が増えていますが、就学後の放課後の過ごし方を保証していかなければ、未就学児だけを手厚くしても意味がありません。今の児童館だけで対応できるのか、また、児童数が今後も増える見込みの北陽小にどう対応するか考える必要があります。また、勇舞中の周辺に横断歩道が見当たりませんが、作る予定はありませんか。

(こども福祉部長) 未就学児の居場所づくりを優先し、保育定員を拡大していますが、併せて学童クラブの整備を進めており、現在17か所、定員860人として設定しているほか、児童館ではランドセル来館を実施し、就学後も居場所ができるよう努めています。北陽小についても、昨年4月に学校内の学童クラブを廃止し、近隣に2つの学童クラブを開設した結果、現在は4つの学童クラブがあり、いずれも定員に余裕がある状況です。また、今後春日町に整備する児童館併設の認定こども園もその機能を果たせると考えております。

(事務局) 横断歩道は北海道の公安委員会の所管であるため、市の関係部署である市民生活課と広報広聴課にご意見があったことを伝えてまいります。

(会長) 中学校から北海道へ意見を出せないでしょうか。

(A委員) 先日の入学式では、斜め横断しないように人が誘導していましたが、多くの人が斜め横断をしていました。

(会長) 事故が起こる前に対策をしてもらいたいと思います。

(こども福祉部長) この会議で出された意見は、こども福祉部の所管外のことでも庁内の所管部署へ伝えていきますので、本件についても同様に、市の関係部署に伝えることといたします。

(J委員) 自宅で子育てをしている方が何に困っているか、届いていないと思います。民生委員児童委員は「地域のおせっかいおばさん」を掲げ、子育てサロンなどを開いていますが、サロンに来られない方の声や要望をどう汲み取るかが課題であるとわかったので、部会に持ち帰りたいと思います。

(K委員) ここ何年かの保育士不足で、当法人では昨年からは保育補助者を雇用しており

ますが、保育補助者に資格取得を勧めた結果、資格取得に挑戦することとしたケースがあります。このように、掘り起こせば、保育士になりたい方はいると思います。

「将来的には保育士に…」と考える人にちょっとした情報でも伝えていければ増えるのではないのでしょうか。

(L委員) 4月から新しい園児が入りましたが、働く保護者は慣らし保育を長期間するのが難しく、急いで進めたいという声も聞かれます。園としても力を尽くしたい気持ちと、子どもに寄り添いたい気持ちがあり、今後も努力してまいります。子育てガイドが見やすくなって良いと思います。今後、利用していきます。

(M委員) 当法人には小さな子どものいる職員もおり、急に休むこともあります。お互い様だというのが社長の考えです。私の子どもはもう大きくなりましたが、周りにはいろんな子ども、いろんな母親がいて、相談する場所もなく困っている方いると感じています。働いている方、働いていない方それぞれにとって心休まる場所があれば良いと思います。

(C委員) 支援を必要とする子どもについて、以前よりも居場所が増えているのだと思いますが、先日、職員不足により閉鎖した施設があります。市で、専門のスタッフを増やす取り組みをしてもらいたいです。

(会長) 皆様の意見を聞きながら、千歳市は次の段階に入ったと感じました。転勤族が多く、働いていない女性が多い市でしたが、働く方のサポートが充実し、今度は働いていない方を支援し、行き届かせていく。この会議ではいろんな会話のベクトルが広がり、委員として自発的に問題を発掘し、意見を持ち、それぞれの居場所を通して活躍しています。こういった方がいることこそ、これまでこの会議でやってきたことの証明だと思っています。そういった意識をもった方が市のあちこちにおいて、発信し、人を巻き込んでいくことが、市の屋台骨のようになっていきます。今後委員が代わっても継承されていくのだと思います。それと同時に、どこまでが市の役割で、どこからが民間の役割とするかは今一度整理していく必要があると感じています。全道の人口が減っている中で人口が増えている千歳市が進むべき方向として、子ども抜きにはないのだということが示されればと思います。実りのある議論をいただきありがとうございました。

(こども政策係長) それでは、これを持ちまして、平成30年度第1回子ども・子育て会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。

3 閉会